

2025年度 第3四半期決算 業績予想



2026年1月30日
日本軽金属ホールディングス株式会社

2025年度 第3四半期決算、通期業績予想 サマリー

第3四半期決算 営業利益186億円(前年同期比+20%)経常利益169億円(同+14%)
通期予想経常利益 210億円(25/5/15公表値据え置き)

1. 第3四半期決算

- 販売面：半導体製造装置向け板・押出は回復先送りで停滞、二次合金の国内自動車向け低調も、化成品及び箔、粉末製品の放熱向けとLIB向け板材好調、自動車部品・トラック架装回復で増収
- 採算面：加工製品、関連事業が引き続き大きく改善、箔、粉末製品も前年同期上回る。
アルミ地金市況反映によるコスト上昇影響も、販価改定効果もあり増益

2. 通期業績予想

- 3Qまで順調に進捗、外部環境の不確実性も考慮のうえ、期首の通期業績予想値を据え置き
- 放熱向け好調継続・自動車部品・トラック架装は回復基調継続、LIB関連はケース材向け板材好調も外装用箔は3Q以降調整局面に、半導体製造装置向けは26年度以降での回復を想定

販売価格改定実施状況

原材料費等コスト上昇分転嫁、加工賃改定、販価適正化により各部門の収益改善
 化成品、トラック架装(輸送機器事業グループ・日本フルハーフ)はじめ順調に進捗

セグメント	事業グループ／部門	価格改定対象	開始時期	改定内容
● アルミナ ・化成品、地金	化成品事業グループ 日軽金・化成品	・ 水酸化アルミニウム、アルミナ	2024年6月	－ 現行価格の10%以上値上げ
			2025年1月	－ 水酸化アルミニウム20円/kg以上、 アルミナ30円/kg以上値上げ
● 板、押出製品	軽圧事業グループ 日軽金・板	・ 全てのアルミニウム板製品	2023年1月	－ 原燃料サーチャージ導入
			2024年2月	－ 加工賃(ロールマージン価格):20%程度値上げ
	2025年6月	－ 加工賃(ロールマージン価格):20%以上値上げ		
	軽圧事業グループ 日軽金アクト	・ アルミニウム押出製品全般	2025年2月	－ 加工賃(ロールマージン価格):20%以上値上げ
● 加工製品、 関連事業	輸送機器事業グループ 日本フルハーフ	<ul style="list-style-type: none"> ・ バンボデー、トレーラ等を含む全商品 ・ バンボデー、トレーラ等 全製品、部品全般 	2023年3月	－ 現行価格の10～15%値上げ
			2024年5月 (部品8月)	<ul style="list-style-type: none"> － 製品:20%値上げ － 部品:15～30%値上げ
● 箔、粉末製品	箔事業グループ 東洋アルミニウム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 樹脂・紙原料の家庭用商品 ・ 箔・加工品、パウダー・ペースト全品種 	2023年7月	－ 20%以上
			2025年4月	－ 労務費上昇分+個別対応で値上げ

米国・輸入関税追加措置 当社グループへの影響

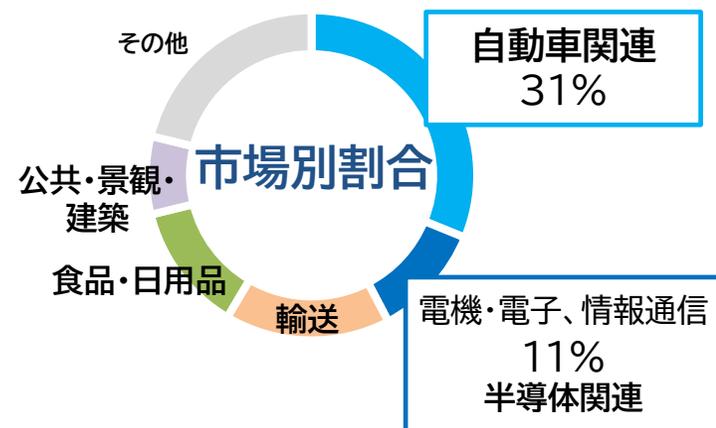
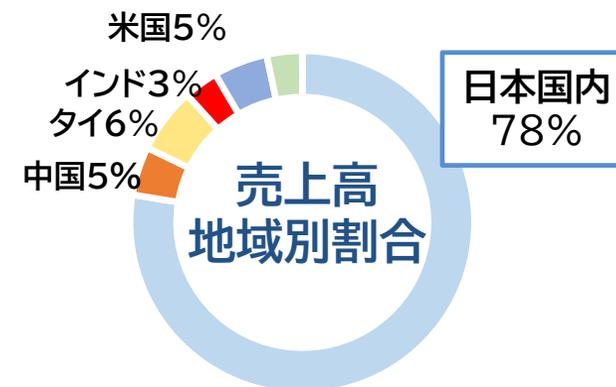
ほとんど影響見られず

直接影響 僅少（海外「地産地消」が過半、対米直接輸出 連結売上高の0.5%程度）

間接影響 引き続き動向を注視（自動車・半導体・鉄鋼）

影響想定（2025/5/15開示内容再掲、現時点でも変化無し）

セグメント	事業グループ	直接影響 (対米直接輸出売上高規模)	間接影響 (お客様影響)
● アルミナ・ 化成品、地金	化成品	僅少(炭素製品)	注視(鉄鋼・自動車)
	メタル	無し	注視(自動車)
● 板、押出製品	軽圧	僅少(押出)	注視(半導体・自動車)
	輸送機器	無し	無し
	自動車部品	無し	注視(自動車)
	エンジニアリング	無し	注視(半導体)
● 加工製品、 関連事業	インフラ	無し	無し
	箱	僅少(パウダー・ペースト)	注視(自動車)



目次

1. 2025年度 第3四半期決算
2. 2025年度 通期業績予想

2025年度 第3四半期決算

第3四半期決算 – 前年同期比

増収・増益：トラック架装や自動車部品が大きく回復、化成品、パウダー・ペーストの放熱向け、板部門のLIB向け板材の販売好調等で売上高増

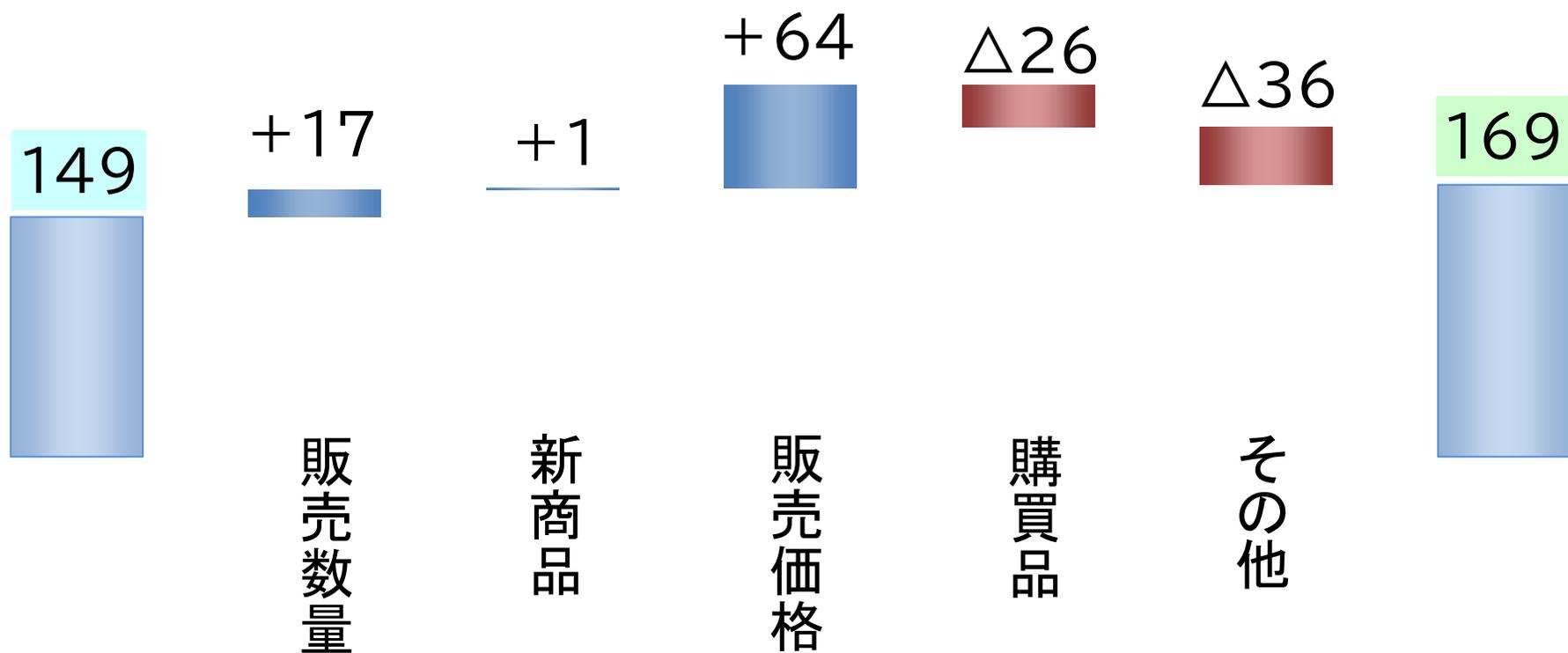
(億円)

	2024/4-12 実績	2025/4-12 実績	前年同期比 増減
売上高	4,040	4,271	+231 (+5.7%)
営業利益	155	186	+31 (+20.2%)
経常利益	149	169	+20 (+13.8%)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	95	115	+20 (+20.8%)

2025年度 第3四半期決算

経常利益変化要因 – 前年同期比

増収・増益：化成品やトラック架装をはじめとする各部門での販価改定効果とトラック架装・自動車部品の収益回復が利益を押し上げ



2025年度 第3四半期決算

セグメント情報 – 前年同期比

板、押出製品：半導体製造装置向けの回復先送りによる販売停滞影響継続

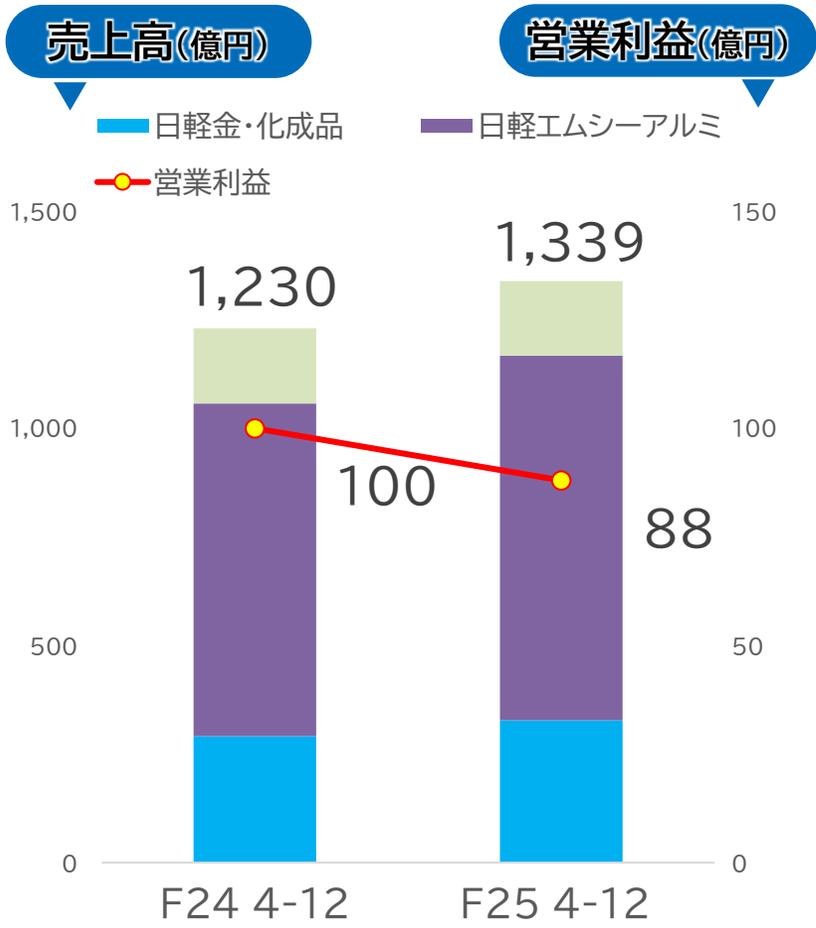
加工関連、関連事業：トラック架装収益回復、自動車部品大きく改善により押し上げ

(億円)

	売上高			営業利益		
	2024/4-12 実績	2025/4-12 実績	増減	2024/4-12 実績	2025/4-12 実績	増減
別注・化成品、 地 金	1,230	1,339	+109 (+8.9%)	100	88	△12 (△12.2%)
板、押出製品	773	821	+48 (+6.2%)	42	33	△9 (△19.7%)
加工製品、 関連事業	1,215	1,259	+44 (+3.6%)	△15	26	+41 (-)
箔、粉末製品	822	852	+30 (+3.6%)	56	64	+8 (+14.8%)
管理・共通	—	—	—	△28	△25	+3
合計	4,040	4,271	+231 (+5.7%)	155	186	+31 (+20.2%)

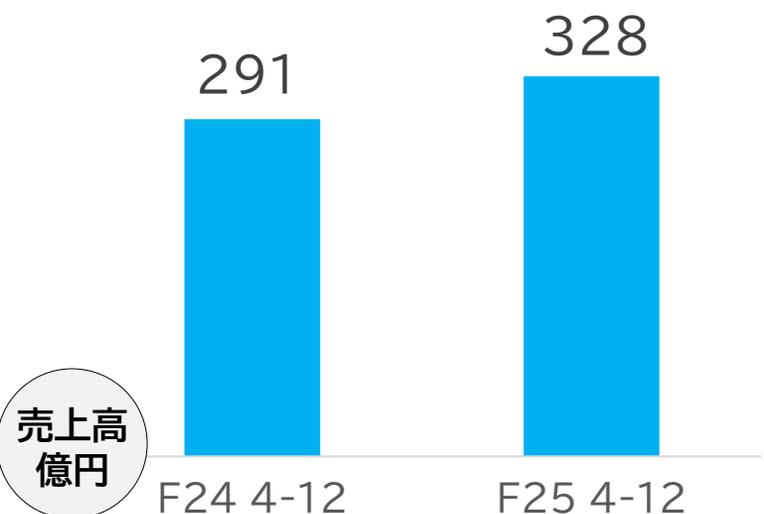
2025年度 第3四半期決算 アルミナ・化成品、地金

化成品：放熱難燃ファイラー向け販売好調継続と原料コスト上昇への販価改定効果で増益
 メタル：二次合金は増益(米・販売環境好調継続)も、アルミ市況変動影響等で減益



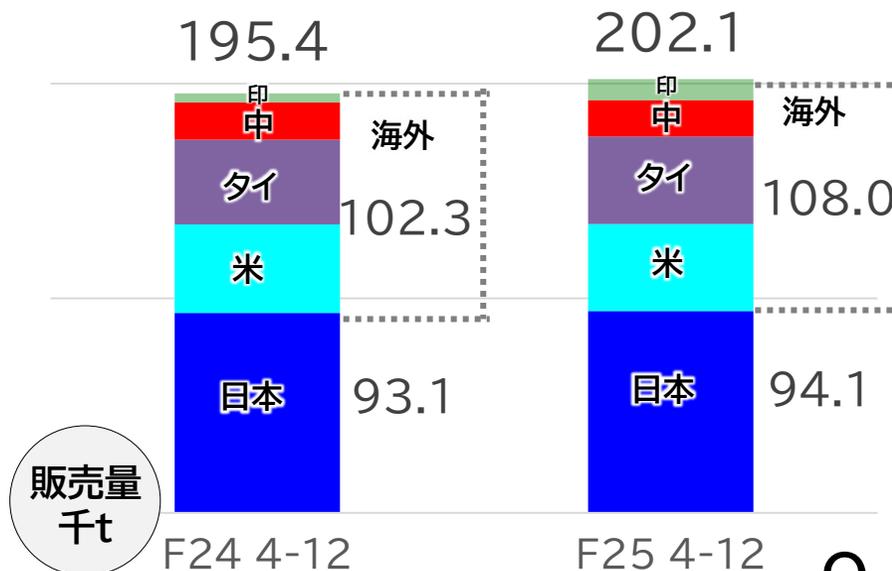
化成品事業グループ 化成品部門(日軽金・化成品)

- 水酸化アルミニウム・アルミナは放熱難燃ファイラー向けの好調が継続、化学品は無機塩化物が鈍化基調続く
- 原料コスト上昇に対する販売価格改定が増収・増益に寄与



メタル事業グループ 二次合金部門(日軽エムシーアルミ)

- 日本：自動車生産低調影響も有り前年同期並
- 海外：米国はアルミ地金価格上昇等販売環境好調が継続、タイ市場低調ながら前年同期比増、中国低調継続、インド新工場本格稼働で増販



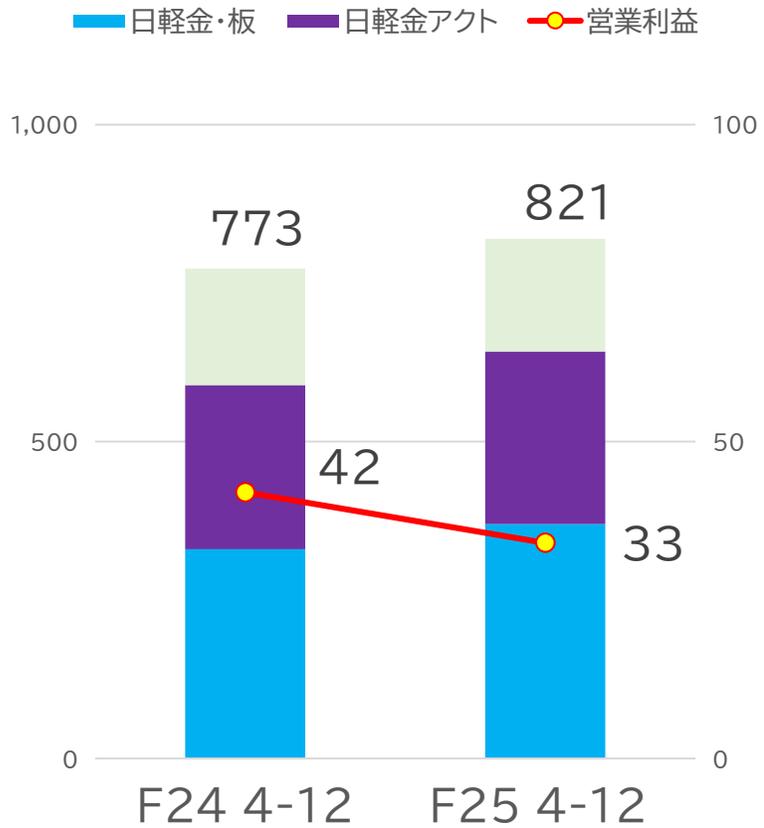
2025年度 第3四半期決算

板、押出製品

LIBケース向け板材は好調、トラック架装向け押出材は堅調推移も、半導体製造装置向け板・押出の停滞継続、アルミ市況変動を反映のコスト上昇影響もあり減益

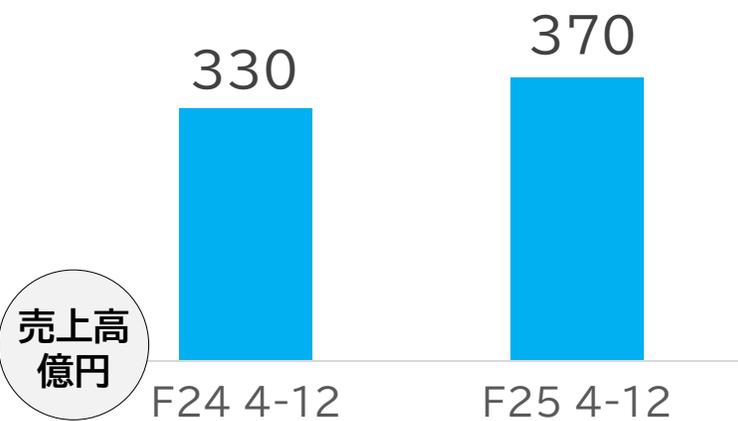
売上高(億円)

営業利益(億円)



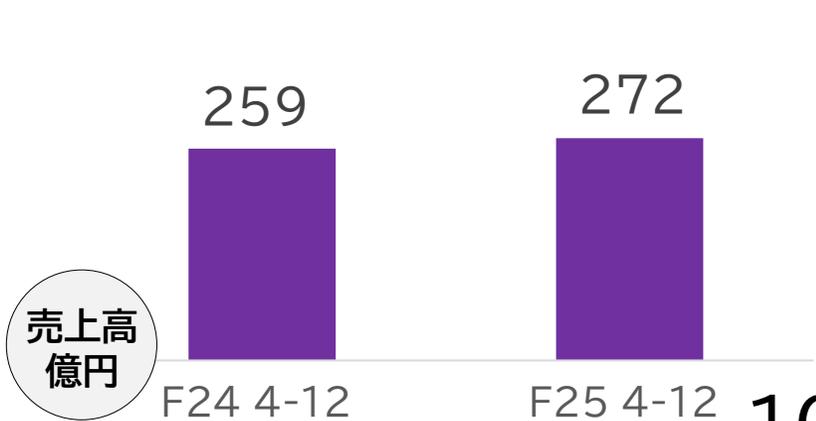
軽圧事業グループ
板部門(日軽金・板)

- 半導体製造装置向け厚板の需要回復が先送りも、リチウムイオン電池ケース向け板材の好調継続とアルミ市況反映の販価影響もあり増収
- 増収と加工賃改定効果に対し、アルミ地金価格変動反映によるコスト影響大きく、減益



軽圧事業グループ
押出部門(日軽金アクト)

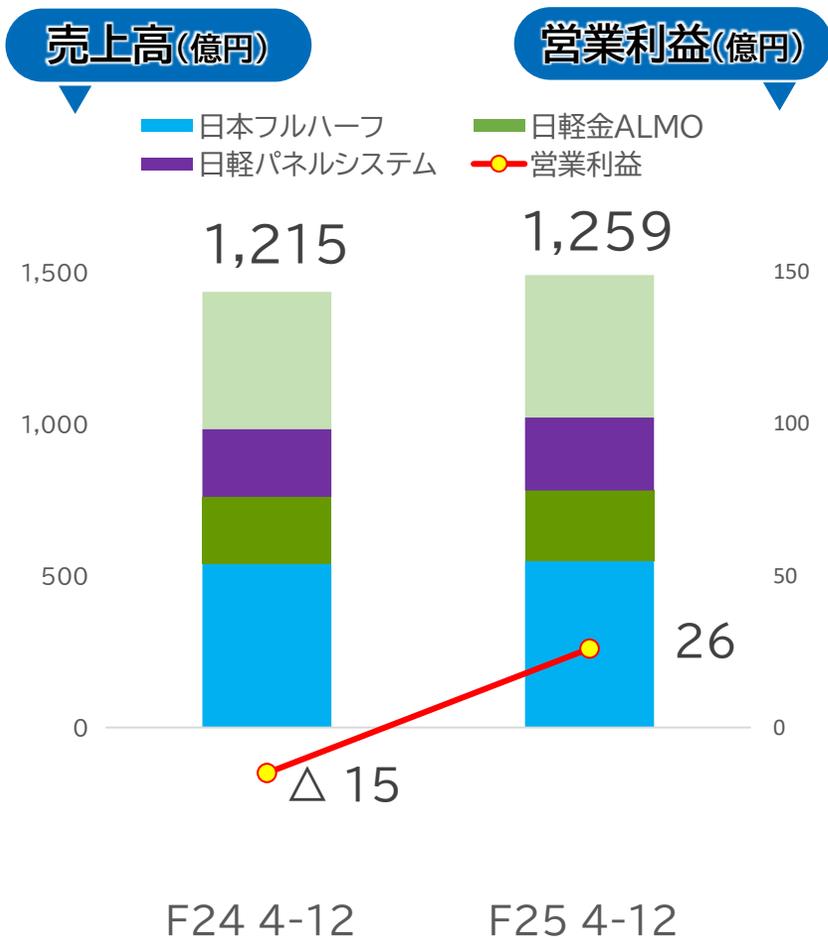
- 半導体製造装置向けが回復遅れも、トラック架装向けが堅調に推移、アルミ市況反映の販売価格上昇影響で、売上高増
- 加工賃改定効果も、アルミ地金価格変動によるコスト影響が大きく、前年同期比減益



2025年度 第3四半期決算

加工製品、関連事業

輸送機器(トラック架装)の販価改定効果等による回復と自動車部品の新規案件・販価適正化等による業績改善がセグメント利益を大きく押し上げ



輸送機器事業グループ(日本フルハーフ)

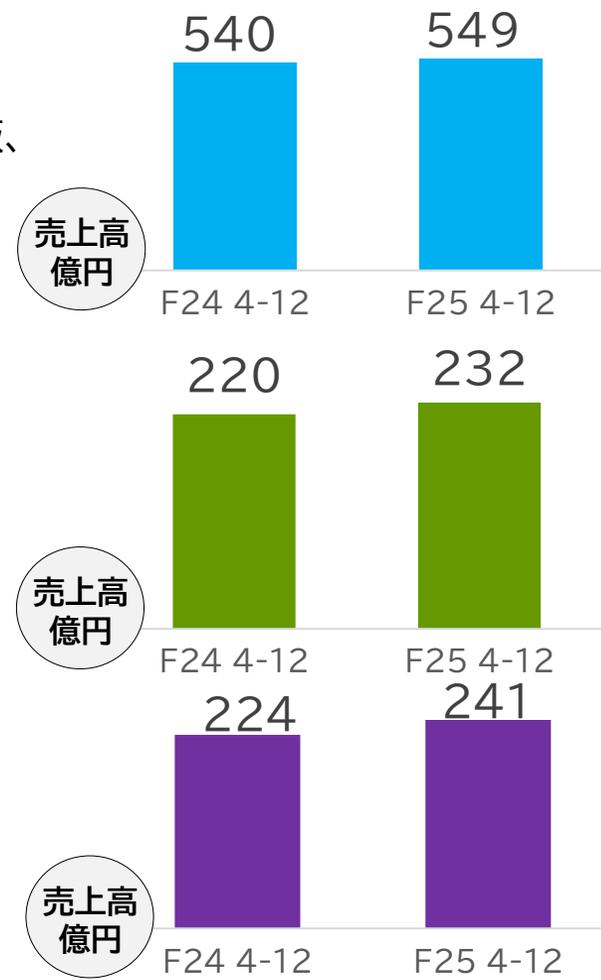
- トラック架装の需要環境堅調継続、アフターサービス増販、販価改定効果により、収益水準大きく回復

自動車部品事業グループ(日軽金ALMO)

- 日本 : 新規案件の上市と新商品の増加に加え、品種構成改善、生産性改善、販価適正化で業績大きく改善
- 海外 中国低調継続、米国は生産性改善で良化

エンジニアリング事業グループ パネルシステム部門(日軽パネルシステム)

- 冷凍・冷蔵分野 : 建設費高騰・人手不足による工期遅れ影響有るも、拠点増設・老朽化更新とで改装需要好調
- クリーンルーム分野 : 半導体関連需要は継続も、前年度の大規模物件受注に対する反動減で前年同期比減販

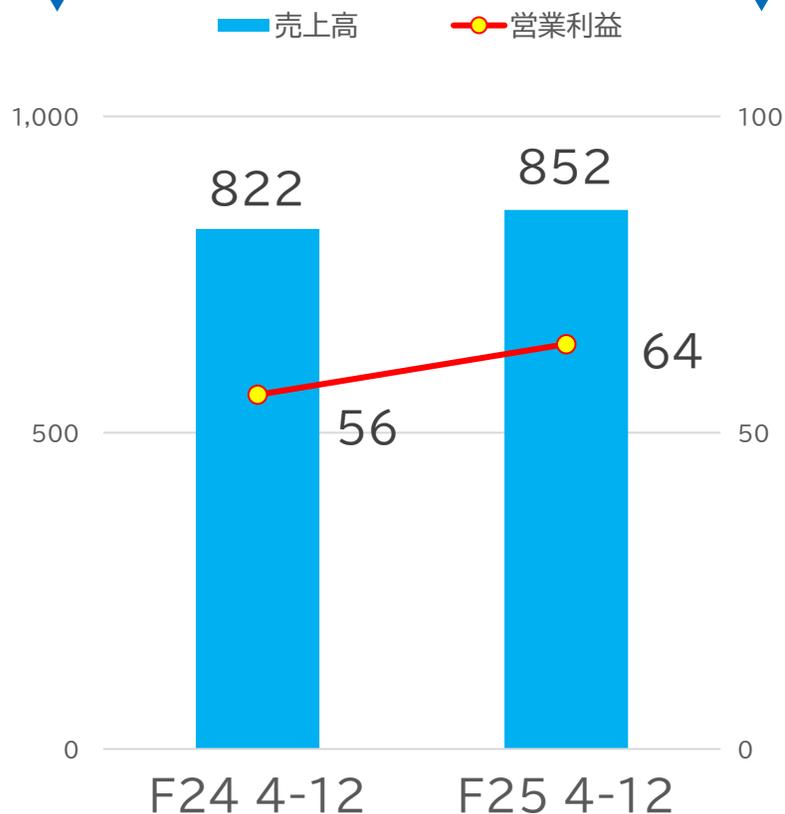


箔、粉末製品

箔はLIB外装用箔が調整局面に入り医薬包材向けは前年同期下回るも、パウダー・ペーストは放熱用途好調と自動車塗料海外向け伸長、各部門での販価改定で、前年同期比増益

売上高(億円)

営業利益(億円)



箔事業グループ(東洋アルミニウム) 箔部門

- リチウムイオン電池外装用箔は3Qに入り調整局面に、医薬包材向け加工箔は前年同期を下回る販売も、アルミ市況反映の販価影響と加工賃改定により、部門売上高は増加

パウダー・ペースト部門

- 放熱用途の電子材アルミパウダー・窒化アルミは好調に推移、自動車塗料向けペーストは国内は減販も海外は中国はじめ北米・東南アジア向け販売も伸び、前年同期上回る部門売上高に

日用品部門

- コンシューマー向けはハウスクエア商品伸長もアルミホイル等販価改定後の減販影響大、パッケージ用品は冷食向けアルミ容器と紙容器の堅調販売と販価改定で、部門売上高は前年同期上回る

目次

1. 2025年度 第3四半期決算
2. 2025年度 通期業績予想

2025年度 通期業績予想

通期業績予想 – 前期比

期首予想(25/5/15公表)を据え置き

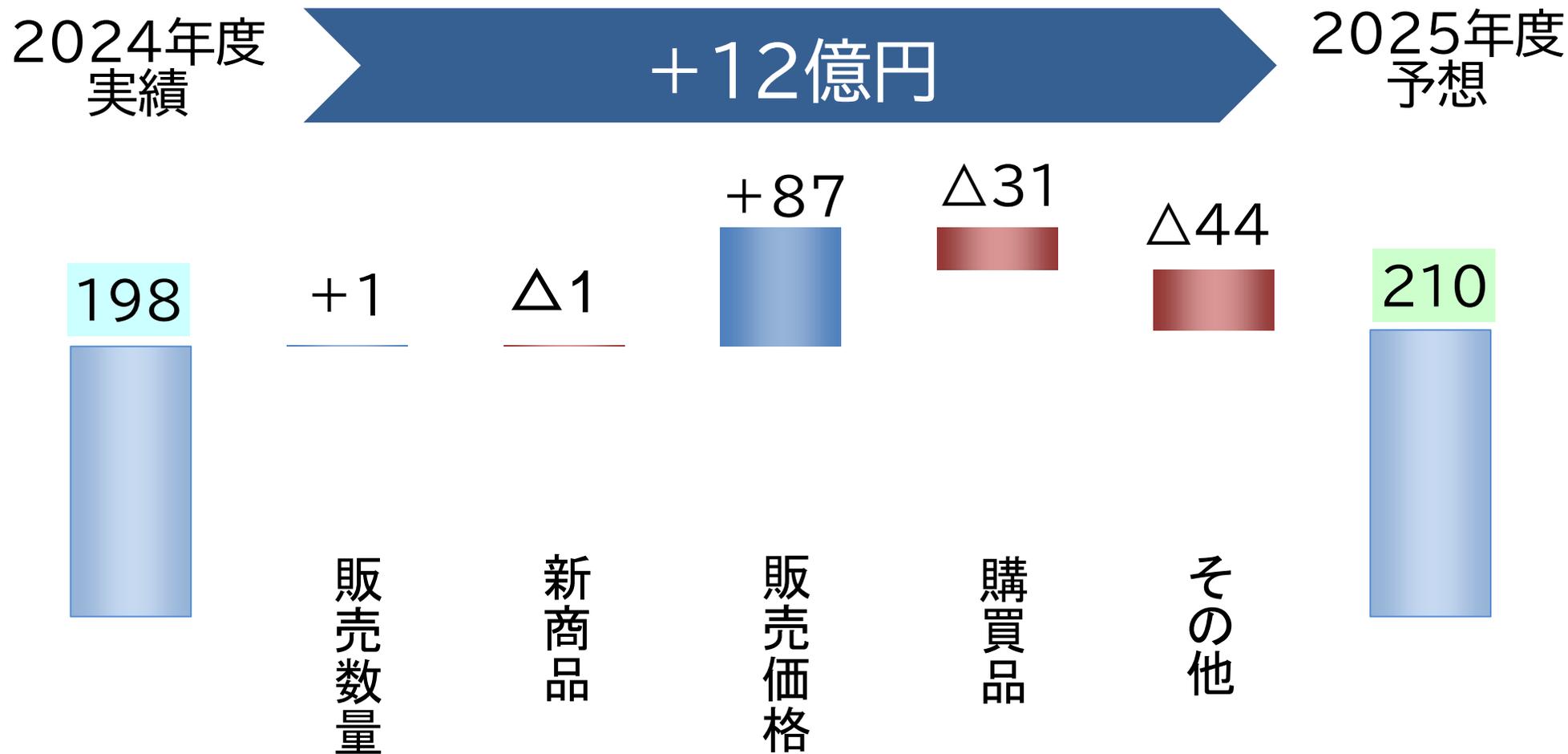
3Qまでの業績 順調に進捗、自動車・半導体関連など市場動向や
不確実性の高い国際情勢にも注視が必要な状況を考慮 (億円)

	2024年度 実績	2025年度 予想	増減
売上高	5,502	5,900	+398 (+7.2%)
営業利益	217	230	+13 (+5.8%)
経常利益	198	210	+12 (+6.1%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	124	150	+26 (+21.2%)

2025年度 通期業績予想

経常利益変化要因 - 前期比

増収・増益 トラック架装等の販価改定効果、放熱関連好調・自動車部品改善は継続、半導体製造装置向け板、押出の次年度以降回復はじめ外部環境も考慮



2025年度 通期業績予想

通期セグメント予想 – 前期比

加工製品、関連事業：自動車部品とトラック架装の回復基調は継続

箔、粉末製品：LIB外装用箔は調整局面、放熱向けパウダーは好調推移

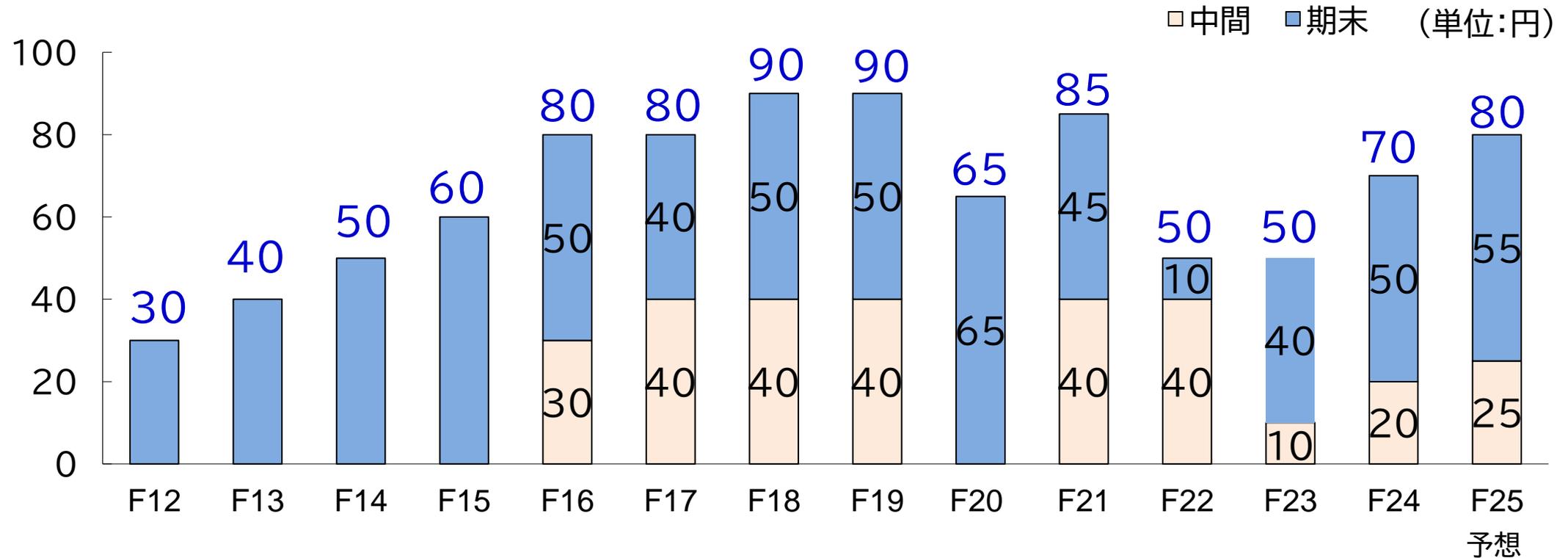
(億円)

	売上高			営業利益		
	2024年度 実績	2025年度 予想	増減	2024年度 実績	2025年度 予想	増減
アルミ・化成品、 地金	1,655	1,870	+215 (+13.0%)	115	100	△15 (△13.3%)
板、押出製品	1,036	1,110	+74 (+7.2%)	55	45	△10 (△19.0%)
加工製品、 関連事業	1,722	1,790	+68 (+3.9%)	32	60	+28 (+89.1%)
箔、粉末製品	1,089	1,130	+41 (+3.8%)	55	70	+15 (+28.2%)
管理・共通	—	—	—	△40	△45	△5
合計	5,502	5,900	+398 (+7.2%)	217	230	+13 (+5.8%)

2025年度 通期業績予想 1株当たり配当金

2025/5/15公表予想を据え置き

1株当たり配当金 80円（中間25円確定、期末55円）、24年度比10円増配

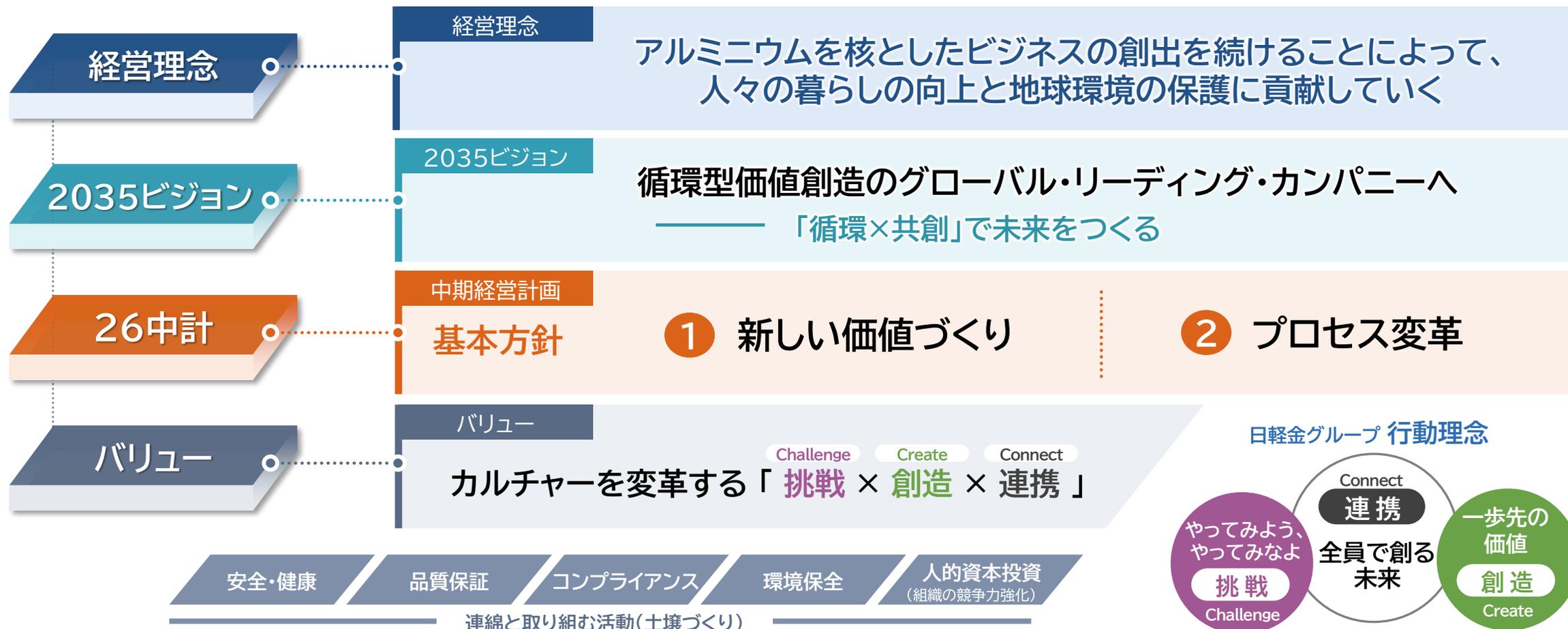


当社は2020年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しておりますので、2019年度(2020年3月期)以前の1株当たり配当額については、当該株式併合の影響を考慮した金額としております。

長期ビジョン「2035ビジョン」 → 次期中計「26中計」基本方針

■ 25年11月開催 IR説明会で公表

— 2035ビジョン／26中計基本方針



長期ビジョン「2035ビジョン」 → 次期中計「26中計」基本方針

- 基本方針を踏まえ、各事業グループ・機能組織の「2035ビジョン」・「26中計」、および骨太方針(予算)を策定中
- 「2035ビジョン」、「26中計」全体像公表 本年5月を予定

STEP 1

26中計 2026-2028年 中計経営計画

変革の実践

- 1 新しい価値づくり
- 2 プロセス変革

23中計 2023-25年 中期経営計画 STEP 0

変革の基盤構築

- 取締役会の監督機能強化
- 事業・機能組織のグルーピング 等

STEP 2

2029-2031年 中計経営計画

価値創造の加速

- アライアンス、M&Aによる事業成長の加速
- エコシステムの構築、ブランド確立 等

STEP 3

2032-2034年 中計経営計画

循環型価値創造の グローバル・リーディング・カンパニー

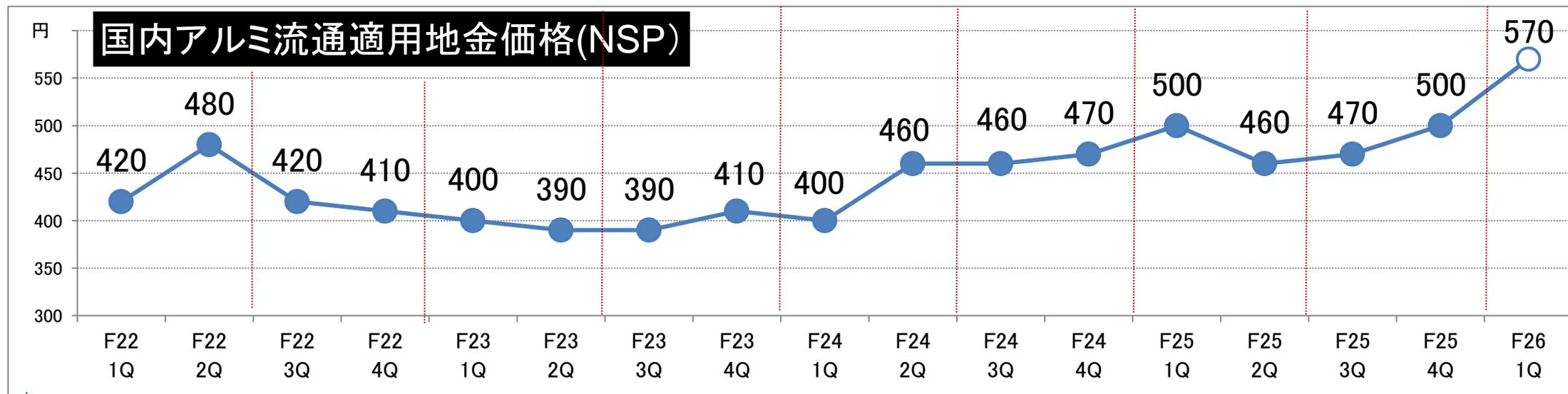
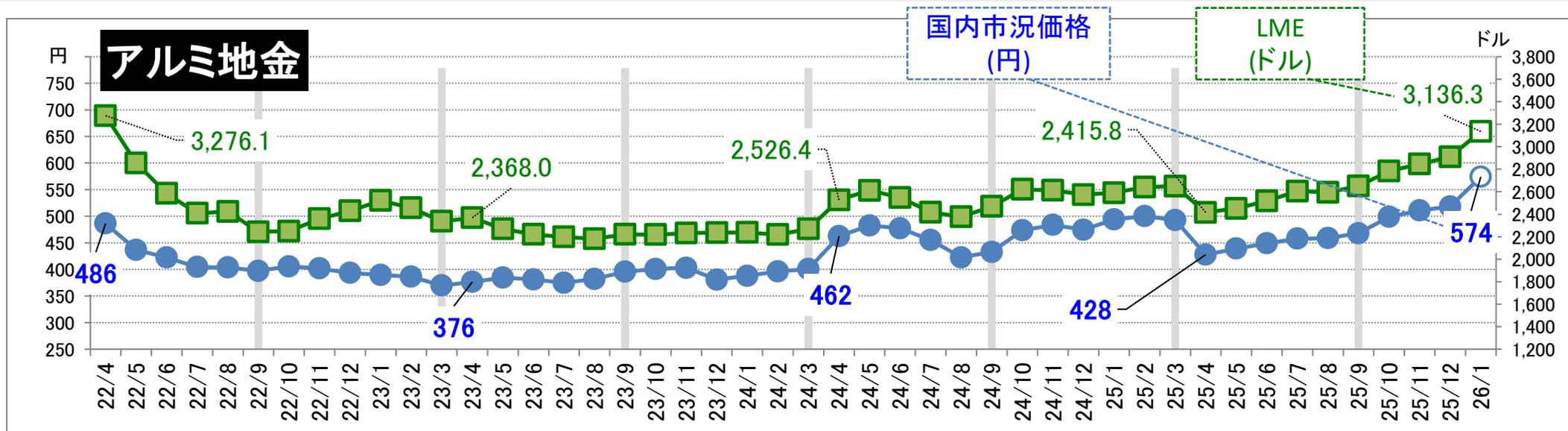
- 「循環・共創」で未来をつくる
- グローバルな共創人財を輩出し続ける会社へ

補足資料

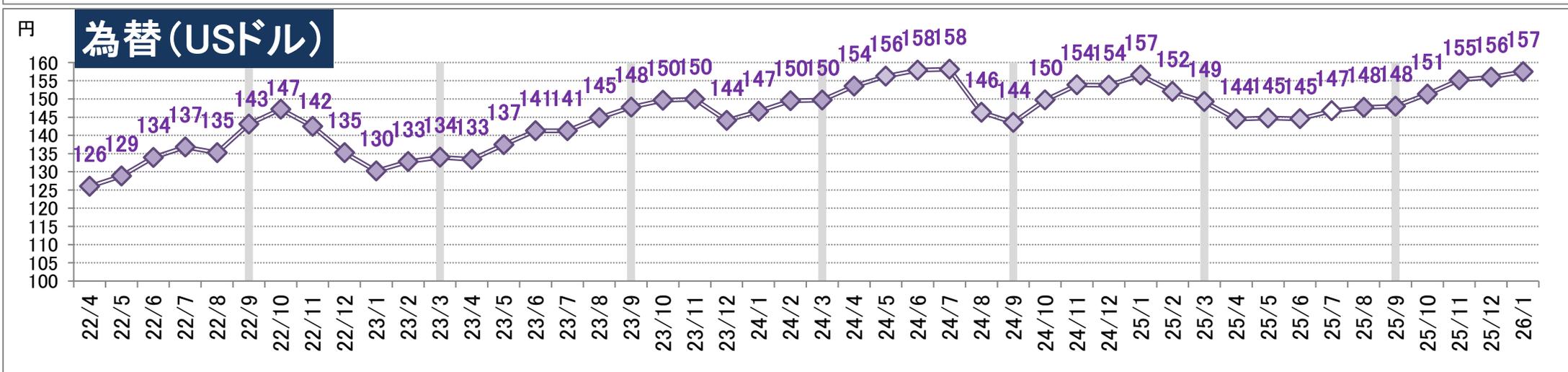
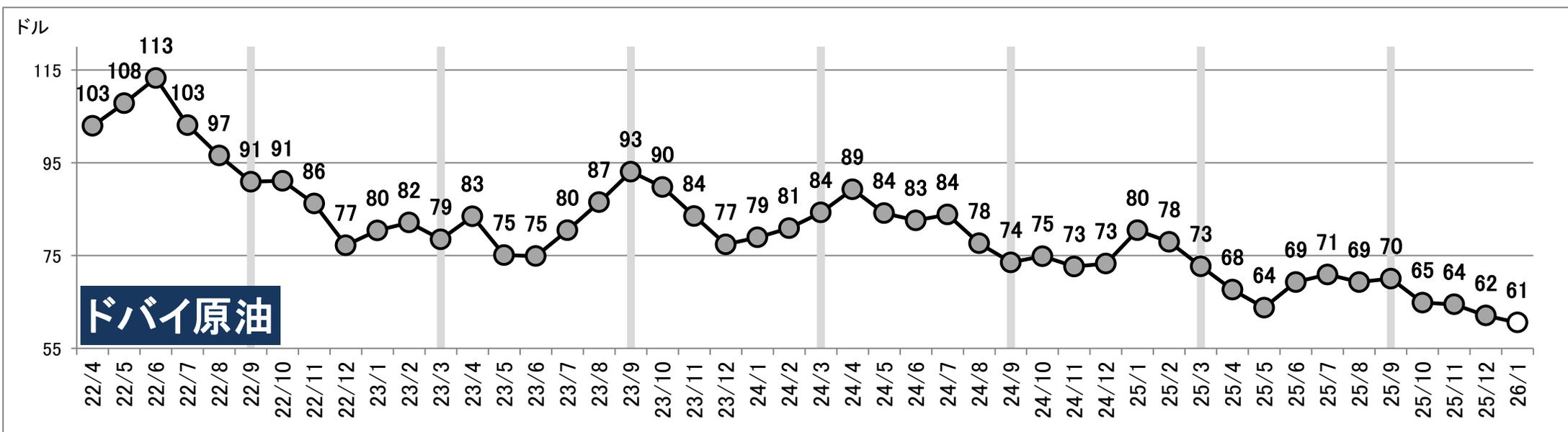
報告セグメントと事業グループを構成する主な部門

報告セグメント	事業グループ	主な部門	主要事業会社・事業部門
アルミナ・化成品、地金	<u>化成品</u>	化成品部門 炭素製品部門	日軽金・化成品 日本電極
	<u>メタル</u>	二次合金部門	日軽エムシーアルミ
板、押出製品	<u>軽圧</u>	板部門 押出部門 電子材料部門	日軽金・板 日軽金アクト 日軽金・電極箔
加工製品、関連事業	<u>輸送機器</u>	トラック架装	日本フルハーフ
	<u>自動車部品</u>		日軽金ALMO
	<u>エンジニアリング</u>	パネルシステム部門 景観エンジニアリング部門	日軽パネルシステム 日軽エンジニアリング
	<u>インフラ</u>		日軽金・蒲原、苫小牧 日軽物流
箔、粉末製品	<u>箔</u>	箔部門 パウダー・ペースト部門 日用品部門	東洋アルミニウム

アルミ地金価格推移



原油価格・為替推移



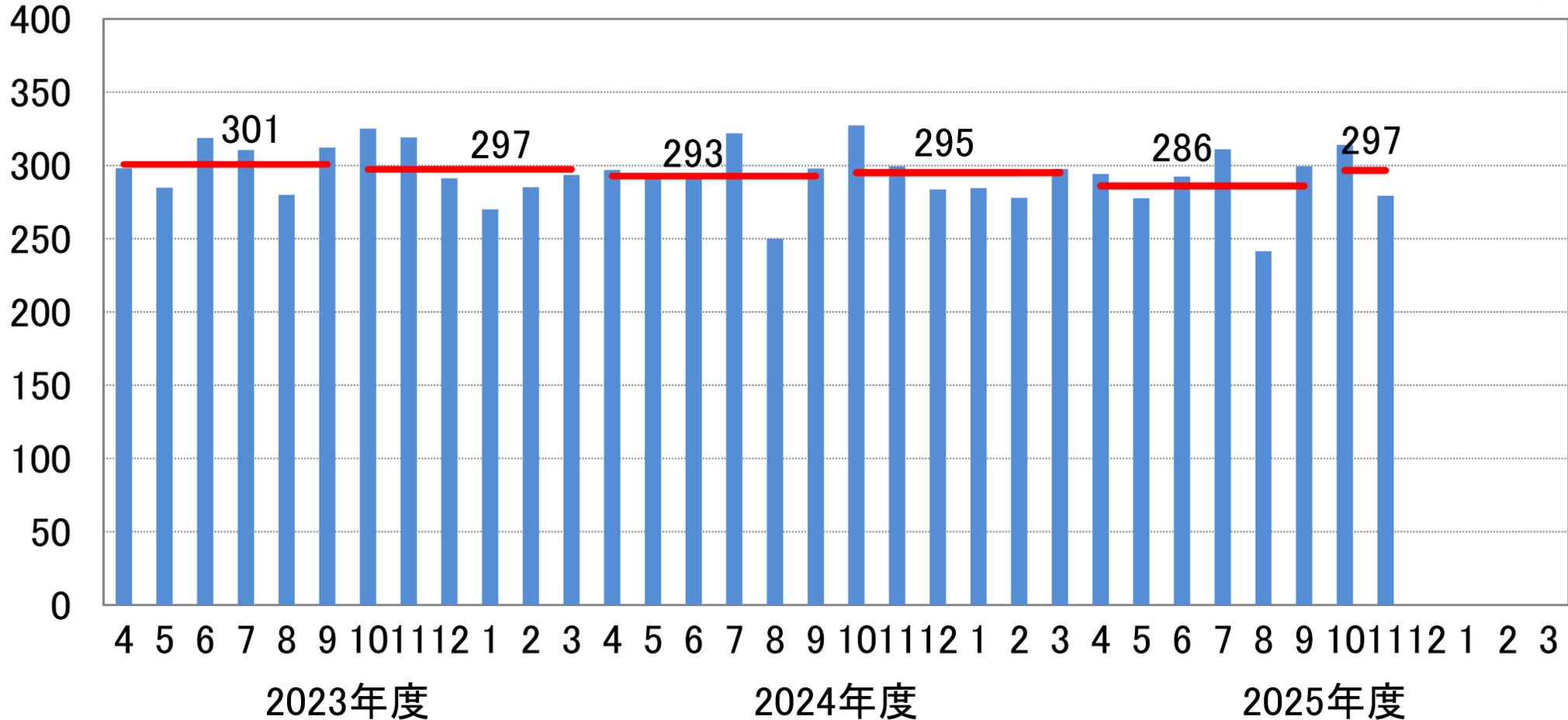
諸元と感応度

	2024年度 実績	2025年度 予想	25/4-12 実績	経常利益への 感応度
アルミ地金 (円/kg)	471	470	470	10円/kg上昇した場合 △4億円/年
為替 (円/米ドル)	153	150	149	10円円高となった場合 ±0 営業利益+7億円/年 営業外損益△7億円/年
ドバイ原油 (米ドル/BBL)	79	80	67	10ドル/BBL上昇した場合 △8億円/年

国内アルミ製品総需要の推移

(千トン)

<出所:日本アルミニウム協会>



補足資料

製品販売量

	2024/4-12 実績	2025/4-12 実績	(千t) 増減
日軽エムシーアルミ(二次合金)	195.4	202.1	+6.7 (+3.4%)
国内	93.1	94.1	+1.0 (+1.1%)
海外	102.3	108.0	+5.7 (+5.6%)
日軽金・板(板製品)	46.9	49.7	+2.8 (+6.0%)
日軽金アクト(押出製品)	21.6	21.5	△0.1 (△0.4%)

補足資料

製品販売量

	2024年度 実績	2025年度 予想	(千t) 増減
日軽エムシーアルミ(二次合金)	261.6	273.9	+12.3 (+4.7%)
国内	124.5	128.8	+4.3 (+3.4%)
海外	137.1	145.1	+8.0 (+5.8%)
日軽金・板(板製品)	63.1	67.1	+4.0 (+6.3%)
日軽金アクト(押出製品)	28.7	28.8	+0.1 (+0.3%)

主要会社の業績

(億円)

	2024/4-12 実績			2025/4-12 実績		
	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益
日本軽金属(単体)	1,117	59	97	1,212	38	85
東洋アルミニウム(連結)	824	56	56	855	64	65
日軽エムシーアルミ(連結)	766	13	16	839	23	25
日本フルハーフ(連結)	540	1	2	549	14	15
日軽金アクト(連結)	259	15	14	272	6	5
日軽パネルシステム(連結)	224	23	24	240	23	24
日軽金ALMO(連結)	220	△24	△28	232	1	△3

主要会社の業績

(億円)

	2024年度 実績			2025年度 予想		
	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益
日本軽金属(単体)	1,508	68	100	1,635	35	79
東洋アルミニウム(連結)	1,092	55	50	1,124	69	68
日軽エムシーアルミ(連結)	1,038	15	19	1,159	29	31
日本フルハーフ(連結)	724	5	4	765	20	20
日軽金アクト(連結)	344	19	17	364	12	11
日軽パネルシステム(連結)	322	41	42	325	30	32
日軽金ALMO(連結)	301	△25	△29	317	2	△7

本資料についての注意事項

1. 本資料は2026年3月期の業績及び今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の購入や売却を勧誘するものではありません。
2. 本資料のなかで記述しております将来の動向や業績等に関する見通しは、歴史的事実でないためリスクと不確定な要素を含んでおり、将来の業績を保証するものではありません。実際の業績は、予測しえない経済状況の変化などさまざまな要因により見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。実際の業績に影響を与える重要な要因には、当社グループを取り巻く経済情勢、社会的動向、当社グループの提供する製品やサービス等に対する需要動向による相対的競争力の変化などがあります。なお、業績に影響を与える重要な要因は、これらに限定されるものではありません。
3. 本資料の中で記述しております事項は、資料作成時点における当社の見解であり、今後予告なく変更される場合があります。
4. 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。